

第2回 春吉橋を核とした空間利活用に関する技術研究会

■日時 平成26年8月27日(水) 13:30~16:00	■委員 ・坂口委員長 ・立花委員 ・松永委員 ・高木委員 ・井上委員
■場所 (株)西日本新聞会館16階 福岡国際ホール 志賀の間	・植松委員 ・辰巳委員 ・牧角委員 ・松本委員

委員発言要旨

アンケート調査結果について

- ・春吉エリアというのは、キーワードがキャナルシティや櫛田神社等限定されていて、それ以外のものはあまりインプットされていない。イメージがぼんやりしていてもトンがったイメージのポイントが少ない「イメージの空白ゾーン」というのが現在の認識の状況ではないか。そこで今回の春吉橋の整備とあわせて、将来のイメージのコアの形成が必要ではないか。
- ・今回の調査はイメージに主眼を置いていて、春吉に実際よく訪問される方がどういう交通手段を使っているか、どういった目的で行っているかというような、利用実態については調査されていなかった。実際に行く人と、あまり行かずにイメージで語っている人では、回答内容にも違いが出てくるので、そこはしっかり区別する必要があるのではないか。
- ・一般の方に聞いているので、今困っている事については、生の声としてよく意見が出てくるが、どういうものがあつたらいいかという様な、今ないものを聞いても常識的なものしか出てこないのではないか。今回の意見は参考にしつつ、別のところで賑わいづくりが必要かの議論が必要となるのではないか。
- ・今回の調査により、春吉橋について一般の方はボンヤリとしかイメージしか持っていないという事が明らかになった。その上で、今後、春吉橋というものが定着していくイメージづくりの方向性を検討していく必要があるのではないか。
- ・今回の調査結果から、一般の方が一致してこういう方向性であるべきだというものの特にはない、ということがわかる。逆にいうと自由に議論できる、いろいろな可能性を秘めているという前向きな捉え方も出来るのではないか。

国体道路の交通特性について

- ・ 昼間の歩行者交通量が思ったより多い。ビジネス目的ではなく回遊や散歩をしている地域の方が多数いるのであれば、そういう方にも利用しやすい整備という視点も必要になってくるので、歩行者の行動目的や属性などについても調査する必要があるのではないかな。
- ・ 観測時期（季節）や昼間・夜間によって、歩行者や自転車の特性がどう違うのか、事故のリスクも変わってくるのか、その辺も考慮して整理すべきではないかな。
- ・ 昼と夜の歩行特性は全く違うので、整備のイメージを考えるとときも二つの面から考えていく必要があるのではないかな。

外国人の行動特性について

- ・ 福岡市でも、歴史遺産や伝統のあるものを地域に整備していくという向きがあると聞いているので、福岡市のまちづくりというものを視野に入れながら考えていく必要がある。冷泉・御供所地区には外国人観光客、特に欧米系の方がよく来られるという事なので、そういうことにもらみながら考えていく事も必要ではないかな。
- ・ 観光については、韓国と中国はこれまで一括りだったが両者の動向はかなり違ってきており、韓国は欧米系が好む歴史・文化の観光をする方が増えつつあるというのが実態。中国は現在、買い物中心のパターンだが、遠くない時期に韓国と同様、歴史・文化の観光に比重が移ってくる可能性はあるので、そういう傾向を踏まえ、国体道路周辺の隠れた観光資源を紹介するような、整備のあり方を考えていけば良いのではないかな。
- ・ 福岡都心部を観光するとき、観光バスを停める場所に苦労しているという実態がある。春吉橋にそういう空間が設けられれば、ここをスタート地点として都心部のスポットへどこへも歩いて行ける位置にある。さらに、外国人観光客に対して現在不十分な観光情報を紹介するなど、福岡都心部観光の拠点としての機能を持たせるという案もあるのではないかな。